

ほほえみ

第65号 2026年2月発行



独立行政法人 国立病院機構
七尾病院

〒926-8531 石川県七尾市松百町八部3番地の1
TEL (0767) 53-1890 (代)
FAX (0767) 53-5771
ホームページ <https://nanao.hosp.go.jp>



「白鳥」橋本義則（七尾美術作家協会会員）

理念 笑顔と誠実な医療を通じて世の中に貢献する

私達の信条

私達は、患者さんにいつも愛と思いやりの心で接します。
私達は、国の担うべき医療を提供し、地域に親しまれる病院を目指します。
私達は、質の高い医療を提供し続けていくために日々研鑽いたします。
私達は、医療の進歩に貢献するために臨床研究を推進します。
私達は、互いに協力し、働きがいのある明るい職場作りに努めます。

目次

2026年年頭のご挨拶	2
ベストポスター賞を受賞しました	3
職場紹介	4
寄付の御礼	4
栄養管理室だより	5

2026年年頭のご挨拶

病院長 安井 正英

新年明けましておめでとうございます。令和6年元日の能登半島地震から早2年がたちました。現在も修繕工事が行われていますが、春までには完了し、新生七尾病院として心も新たに飛躍の年にしたいと考えています。能登地区の皆様方には、それぞれ様々な震災の影響が残っている状況の中で、七尾病院のためにひとかたならぬご尽力をいただき、改めて感謝申し上げます。年頭のご挨拶にあたり、昨年の出来事を振り返りつつ、本年の目標に関して述べさせていただきます。

まず、2024年6月1日より結核病棟が一般病床およびモデル病床7床に変更許可され、結核以外の入院対応が可能となり、病床運用の利便性が向上し、入院患者様の受け入れにも余裕ができました。それとともに、昨年度より当院の3本柱「結核、神経筋疾患および重症心身障害者診療」に加えて、“急性期病院と介護医療院・施設の狭間にある患者様の受け皿になる”ことを第4の柱に掲げました。結核や神経筋疾患の入院数は徐々に減少してきていますが、癌や慢性疾患の終末期緩和ケア、中等症以上の呼吸不全などの患者様の受け入れが増加し、平均入院患者数も前年度より増加に転じてきています。この第4の柱が、能登地区において当院が果たすべき重要な役割の一つであることを確信し、今後も継続的に注力していきたいと考えています。これらの患者様に対してより質の高い医療を提供するため、緩和ケアや呼吸ケアの中心となるチームを立ち上げることを目標に、各職種で中心となるメンバーの育成に一層尽力していきたいと考えています。

次に、昨年11月には国立病院総合医学会が金沢で開催されました。多くの職員の方々のご協力をえて、金沢らしく、品があり文化と伝統を感じられた素晴らしい学会であったと思います。当院からは昨年10演題発表いただき、臨床的にも有用な治験が見いだされてきています。これらの成果を病院全体で継続的に取り組んでいくことも課題であり、ぜひ病院全体で日常臨床にも生かしていきたいと考えています。さらに、国立病院総合医学会のみならず、石川県内をはじめとした他の病院にもアピールしていくことも積極的に推奨し、今年は様々な学会や研究会でも発表していただこうと思っています。

最後に経営上の問題ですが、診療材料費、人件費、高熱費などの高騰による支出が大きな経営負担となり、これらの支出は医業では価格転換ができません、国内すべての医療機関で大変厳しい経営状況に陥っています。当院でも昨年度の経常収支は赤字決算となりましたが、震災関連費用を除けば、何とか黒字でとどまれました。今年度も、震災関連の修繕費用が大きくマイナス要因となっていますが、震災関連費用を除けば今のところ何とか黒字を維持しています。さらに、高市政権となり、3月までに病床数に応じた補助金や、来年度の診療報酬プラス改定など明るいニュースもあり、さらなる経営状況の改善とよりよい医療が提供できることを期待しています。

本年も当院のキャッチフレーズである「笑顔と誠実な医療を通じて世の中に貢献する」ことを職員一同心にとどめ、安全で安心できる医療の提供を行ってまいりますので、よろしく願い申し上げます。



ベストポスター賞を受賞しました

～ 身体拘束解除における代替手引書の有用性 ～

看護部 寺井 智佳子

今病院では、患者さんの安全を守るための身体拘束について適正に行うことから、更に最小化する取り組みを行っています。昨年は、身体拘束解除に向けて複数の代わりとなる方法（代替法）を組み合わせることで身体拘束の解除に有用であるということを発表しました。今年度は、その結果を効果的に活用するために手引書を作成し、職種に関係なく誰もが身体拘束解除に向けての判断ができる関わりを行い、解除件数に大きく貢献したことを発表しました。その発表が評価され、第79回国立病院総合医学会でベストポスター賞を受賞することができました。

身体拘束解除のための手引書を作成する視点として、①身体拘束の必要性を判断するポイント ②身体拘束を解除できる方法や複数の組み合わせ例 ③解除方法を検討する時に、話し合い（カンファレンス）をする時の進行方法を入れました。そして、手引書を活用しながら検討することで、「こうすれば外せるかもしれない」という新たなアイデアを増やすことができ、手引書をもとに実用的な改善策を考える役割となることを実感しました。この始まりは副看護師長会での活動でしたが、手引書の小さな工夫が現場全体の意識改革に影響することができた成功体験は、今後の改善活動への大きな励みとなりました。この経験を力に、日々の看護ケアで生じるさまざまな課題に積極的に取り組んでいきたいと考えています。

国立病院総合医学会の発表は、私にとって初めての経験であり緊張しましたがとても良い経験となりました。この経験をつなぎ、次の後輩育成に役立てたいと思います。今回の活動を支えてくれたスタッフの皆様にも心より感謝いたします。



職 場 紹 介

1 階病棟

私たちの病棟は、52床の重症心身障害者病棟です。看護師・療養介助専門員・療養介助員・看護補助者が連携し、それぞれの専門性を活かして協働しています。多職種で連携することで、より安全に・より丁寧に・より寄り添ったケアを実現し、患者さんの24時間の生活と医療を包括的に支えています。



重心看護の魅力は、患者さんの言葉だけでは伝えきれない思いを、表情や身体の動きから感じ取る。そんな瞬間に、命のひたむきさと純粋さが心に響きます。また、長期的に寄り添うことで、微細な変化にも気づき、一人ひとりに合わせたケアを丁寧に積み重ねることができます。医療だけでなく生活まで支える重心看護は、“命に寄り添う”という看護の原点を深く実感できる領域です。

私たちは多職種で患者さんを支えるチームケアを行い患者さんの「安心」「快適」「その人らしさ」を大切にしたいケアを提供しています。

2 階病棟



私たちの病棟は、52床の神経内科・呼吸器内科の病棟です。神経難病や呼吸器疾患を抱える患者さんが多く、長く病気と向き合う方の療養を支える役割を担っています。病気とともに生きる時間が長いからこそ、治療だけでなく、「生活を支える看護」に力を入れています。

体の動きが制限される方でも心地よく過ごせるように「清潔を保つケア」「安楽な体位調整」など安全で快適に過ごせる環境づくりに取り組んでいます。

また、患者さんやご家族が「どのように生きたいか」を安心して話し合えるよう、思いを伺いながら今後の治療や生活について一緒に考える取り組みも行っています。気持ちや不安をゆっくり話せる時間を大切にしています。

地域のみなさんにとって、気軽に相談できる病棟でありたいと思っています。これからも専門性と温かさを両立した看護を提供できるように努めていきます。

寄 付 の 御 礼

岡田静子さまより40万円、山瑞光子さまより10万円、匿名希望の方からも10万円のご寄付を賜りました。

厚く御礼申し上げますとともに、大切に活用させていただきます。
ありがとうございました。

栄養管理室だより

～ 臨地実習レポート編 ～

今回は金沢学院大学から3人の学生さんが実習にきました。病院の管理栄養士がどのような仕事なのか感じたことをレポートしていただきました☆

私たちは2週間、実習をさせていただきました。初めての病院実習は、見るもの聞くものすべてが新鮮で、毎日が学びの連続でした。

栄養指導や調理業務、チーム医療の現場を通して、管理栄養士の仕事の奥深さとやりがいを感じました。この経験を生かし、これからも一歩ずつ成長していきたいと思います！

NST 回診を見学し、栄養状態の評価や食事内容の提案を通して、管理栄養士が患者さんの治療方針に深く関わっている姿はとても印象的でした。多職種と意見を交わしながら、一人ひとりに最適な栄養管理を行う重要性を学び、自分も将来その一員になりたいという思いが強くなりました。



竹田 愛子さん



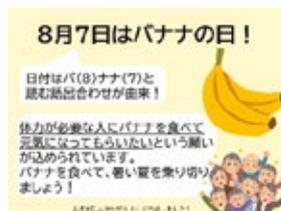
樋詰 遥さん

多職種と情報を共有し、患者さんにとって最適な食事を提供する姿を見て、病院での食事はただの食事ではなく、治療や回復を支える大切な要素だと知りました。また、食事は治療の一部であると同時に、患者さんの楽しみや安心感にもつながっていると感じ、管理栄養士としての役割の大きさを実感しました。

患者さんの状態を良くすることを第一に食事や栄養の面からのアプローチの工夫を知ることができました。実際に患者さんと話させていただき、七尾病院の食事は患者さんの満足のいくものであると感じました。日々の生活に欠かすことのできない食事に携われることをとてもうれしく感じることができました。



高野 和弥さん



将来が楽しみです！ぜひ地元での活躍お待ちしております！(^^)！

職員募集!

ご希望の方は、
お気軽にご連絡ください。

問い合わせ先

独立行政法人国立病院機構七尾病院
(0767) 53-1890 (内線1105)

- 看護師(常勤)
 - 作業療法士(常勤)
 - 医療社会事業専門員(常勤)
 - 療養介助員(非常勤)
 - 事務助手(非常勤・障害者枠)
- を募集しています

外来診療担当医表

外来受付時間 8:40~11:30 13:00~15:00

区分・時間	月	火	水	木	金	
呼吸器内科※1	午前	安井	安井	藤村	藤村	安井
	午後			藤村	藤村	
脳神経内科	午前	横地	木元	木元・橋井	森永	横地・森永
内科	午前	吉尾・泉谷	陳	橋井	森永	吉尾・泉谷
	午後	吉尾・泉谷	陳	橋井	森永	吉尾・泉谷
消化器内科	午前		陳			
小児科	午前	泉・瀬野※2	泉※2	泉	泉・瀬野	泉
	午後	泉・瀬野	泉	泉	押切・瀬野	
ペインクリニック内科	午前	高澤	高澤・松島		高澤	高澤 松島(第1~第3)
	午後		松島(第2・第4)	高澤		松島(第4)
循環器内科	午前				田中	

※1 呼吸器内科の慢性咳嗽外来は予約診療となります。初診で診察ご希望の方は事前にお問い合わせをお願いします。

※2 小児神経・発達障害・てんかん外来の初診は予約制です。診察ご希望の方は事前にお問い合わせをお願いします。

病院概要

■医療法病床 214床

■標榜診療科

内科、脳神経内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、小児科、ペインクリニック内科、リハビリテーション科



案内図



JR七尾線「七尾駅」下車
→北鉄バス【和倉温泉行】にて
(3.7km./約15分)七尾病院前下車
→徒歩5分(500m.)

※平日の午前中は坂下まで
病院バスの送迎あり



編集後記

「12月中旬より、地域医療連携室の事務助手として勤務している竹田です。まだまだ勉強中ではありますが、周囲の皆様にご支援いただきながら、日々業務に取り組んでいます。まずは目の前のことを一つ一つ丁寧に頑張っていきたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。」

地域連携事務 竹田 萌